

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：34602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25870969

研究課題名(和文) アフリカ熱帯雨林における先住民の「伝統的な生態学的知識」の習得・継承に関する研究

研究課題名(英文) Studies of Inheritance of Traditional Ecological Knowledge among Hunter gatherers in Tropical Africa

研究代表者

服部 志帆(Hattori, Shiho)

天理大学・国際学部・講師

研究者番号：50512232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：アフリカの熱帯雨林で生活を営んでいるピグミー系の狩猟採集民は狩猟規制をとまなう自然保護や生活環境を破壊する伐採事業によって生活や文化を維持することが困難になっている。彼らが培ってきた「伝統的な生態学的知識」は、アイデンティティの維持だけでなく森林環境を維持していくうえでも重要である。本研究は、これらの性質を明らかにしながら、このような知識が習得・維持される条件の検討を行った。とくに、カメルーンに暮らしている狩猟採集民のバカ・ピグミーについて事例研究を行った。また性質を明らかにするために、マレーシアの狩猟採集民プナンと比較を行った。

研究成果の概要(英文)：Pygmy hunter gatherers faced hunting regulations and logging operations. It is very difficult for them to keep their life and culture which they have developed through interaction with forests. "Traditional Ecological Knowledge" is very important for their identity and sustainable use of forest. I examined characteristics of "Traditional Ecological Knowledge" and discussed social circumstance in which they could inherit their knowledge. I used case study of Baka hunter gatherers in Cameroon. I also made a comparative study of Baka and Punan hunter gatherers in Malaysia.

研究分野：生態人類学

キーワード：狩猟採集民 伝統的な生態学的知識 ピグミー アフリカ 熱帯雨林 知識の習得

## 1. 研究開始当初の背景

熱帯雨林の保護は、地球環境問題における最重要課題の一つとなっている。しかしアフリカの熱帯雨林では、グローバルな環境思想と制度がこの地域に暮らしてきた先住民ピグミーから生活と文化の基盤である森を奪いつつある。森林保全プロジェクトがすすめる国立公園や世界遺産の設定は、ローカルな現場でピグミーの移動生活や狩猟活動を禁止し、ピグミーと保護側のあいだで森林資源をめぐる対立が起きている。

私はこれまで「アフリカ熱帯雨林の保全と先住民の生活・文化の両立」を目標としてきた。カメルーン東南部の先住民バカ(ピグミーの一集団)の森林利用と「伝統的な生態学的知識(TEK)」を定量的かつ定性的に明らかにし、現行の森林保全プロジェクトの問題点と改善点を具体的に提示した。

またバカが主体的に外部社会に対して自分たちの存在を示す手段として、彼ら自身がGPSを用いて活動域をマッピングする方法や近年この地域で活発化している先住民運動の動向について検討を行ってきた。

次のステップとして申請者が目をつけているのが、バカの詳細かつ豊富な「伝統的な生態学的知識(TEK)」である。バカが従来の生活や文化を維持していくためには、彼らの活動域である広い森林環境だけでなく、それに関するソフトウェア、すなわち TEK が必要であると考え。TEK は彼らが自信を持って語るものであり、バカのマイノリティ化が地域社会で進むなか今後アイデンティティの形成・維持のためにもきわめて重要な意味を担ってくるだろう。早くから先住民運動の盛んであった北米や南米では、TEK が自然資源の持続的利用に果たす役割が注目を浴びてきたが(e.g. Berkes 1999)、アフリカでは先住民運動の歴史が浅く、TEK はほとんど注目を浴びてこなかった。

私は733種類の動植物に関するバカの知識の研究からアフリカ熱帯雨林において先住民であるバカの TEK が彼らの文化や森林の保全に貢献する可能性は大きいと考えている。しかし、バカの TEK に関する研究は動植物に関する知識の概要と一部の特性(大きな個人差が存在)を明らかにするにとどまっておき(e.g. 服部2012) TEK が習得・継承されていくプロセス、さらにはそれが森林保全に関してもつ可能性はほとんど議論されてこなかった。

バカの TEK に関する詳細かつ十分な研究がほとんど行われないうまま、一部の地域のバカは、近代化政策や森林保全の影響を受けることによって TEK を変容・消失させている可能性も出始めている。TEK

の習得・継承のプロセスと TEK がおかれている状況を早急に明らかにするとともに、森林保全における TEK の活用の可能性について検討する必要がある。

Berkes, F., 1999. Sacred Ecology: Traditional Ecological Knowledge and Resource Management. Philadelphia. Taylor & Francis.

服部志帆, 2012. 「森と人の共存への挑戦: アフリカ熱帯雨林保護と狩猟採集民の生活・文化の保全に関する研究」(京都大学アフリカ研究シリーズ008) 松香堂書店。

## 2. 研究の目的

私は TEK が習得・継承されていくプロセスと TEK が置かれている状況を明らかにし、これらが再生産されていく条件を具体的に提示する。

外部社会との接触が比較的少なく従来の生活を維持している伝統的な集団を対象とし、TEK は実際に誰からいつどこどのように習得・継承されるのかを明らかにする。これまでピグミーの学習に関する先行研究では、大人は子どもたちに積極的に教示をおこなわないことが限られた実証的なデータをもとに論じられてきた(e.g. 亀井, 2010)。

私はこれまでにバカが植物知識を両親から学ぶことを聞き取り、実際に両親が森で子どもに知識を教示している様子を観察した。TEK には非教示で学ぶものと、そうでないものがあるのだろうか。知識が情報として獲得された後、知識を試行錯誤しながら利用し自分のなかに取り込む、さらにはそれを他者に継承していくプロセスについても追いたい。

TEK が現在置かれている状況については、近代化の影響を受けて生活を変容させている集団を対象に TEK と日常行動の世代差、性差、経験差について明らかにし、これらと申請者がすでに調査を行った伝統的な集団の結果を比較してみたい。定住化・農耕化政策、学校教育、森林保全などがバカの行動をどのように変え、それによって TEK がどのような影響を受けているのか検討し、バカが TEK を維持していける社会経済的な状況を明らかにする。

TEK が森林保全において果たす役割については、これまで研究会やシンポジウムをともに開催してきたこの地域の研究者のネットワークを通じて、TEK 検討会を立ち上げ、TEK を取り巻く現況、GPS と TEK を用いてバカが行う動物資源の管理、TEK をヒントにした非木材資源の活用の可能性、について検討する。

亀井伸孝, 2010. 「森の小さなハンター

### 3. 研究の方法

研究期間3年のうち、初年度と次年度はそれぞれに2度ずつの現地調査を実施する。伝統的な先住民集団の調査から「伝統的な生態学的知識(TEK)」の習得・継承のプロセスを明らかにし、近代的な先住民集団の調査から近代化による生活の変化とともに変容・消失しつつあるTEKの現状を明らかにする。これらからTEKの存続条件の検討を行い、最終年度にTEK検討会を調査地であるカメルーンと問題解決に影響力を持つイギリス、そして日本で行う。ここでは、本研究で明らかにするTEKの現況と文化保全にTEKが果たす役割について議論を行うとともに、TEKの保全と活用方法について検討する。

### 4. 研究成果

数年の間、体調不良のために地理的に遠いアフリカにおけるフィールドワークがほとんどできなかったため、研究方法については修正を行わざるを得なかった。修正した点は、下記のとおりである。体調が改善した時にマレーシアにおけるフィールドワークの実施しアフリカとの比較研究を行い、アフリカの先住民のTEKの特性を検討した。TEKの存続条件については、TEKを取り巻く状況を政治的社会的な観点から検討を続けた。成果を国内外の学会で発表し、TEKの特性や存続についての議論を行った。

アフリカにおいて、伝統的な集団と近代的な集団の知識を比較するというアプローチはとれなかったが、アジアを事例にTEKの特性を明らかにし、存続する条件について議論を深めることができたのは成果であると考えている。

東南アジアで狩猟採集民の民族植物学について研究を行ってきた小泉博士の協力によって行った詳細なアジアとアフリカの比較民族植物学はこの分野で初の試みであり充実した研究となった。比較の詳細についていうと、どちらも非常に多くの植物を認識・命名しているが、食用については東南アジアの狩猟採集民が多くの知識を持っており、薬についてはアフリカの狩猟採集民が多くの知識を持っていることがわかった。物質文化については同等である。このような差異を自然環境、言語環境、移動史、生活変容から検討し、知識が維持・および変容する要因について論じた。

TEKの存続条件については、現在アフリカ熱帯雨林の先住民の置かれている状況を自然保護との関わりからさらに考

察した。カメルーンでは狩猟の取り締まりに軍事的な介入が見られるようになっていたり、先住民の支援団体の介入により現地で対立が生じており、先住民による森林利用がますます困難な状況にあることを報告した。状況は深刻であり、TEKの保全のためにはこのような状況を取り除き、先住民が森林利用を許容する、人間の活動を取り込んだ自然保護が求められることを強調した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

1「第13章 国立公園の普及と中部アフリカの狩猟採集民」(単著)、服部志帆、『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生(池谷和信編)』、東京大学出版会、全13頁、pp.240-253 2017年3月21日

2 "Bushmeat Crisis, Forestry Reforms and Contemporary Hunting Among Central African Forest Hunters" (Mitsuo Ichikawa, Shiho Hattori, Hirokazu Yasuoka), Hunter-gatherers in a Changing World, Springer International Publishing, 59-75 2016年11月23日

3「熱帯雨林における狩猟採集民の植物知識-アフリカのバカとボルネオのプナンの比較-」、服部志帆、小泉都、『アジア・アフリカ地域研究』16-1, 1-37 2016年11月

4 "Differences between Pygmy and Non-Pygmy Hunting in Congo Basin Forests" (John E. Fa, Jesús Olivero, Miguel Angel Farfán, Jerome Lewis, Hirokazu Yasuoka, Andrew Noss, Shiho Hattori, Masaaki Hirai, Towa O. W. Kamgaing, Giuseppe Carpaneto, Francesco Germi, Ana Luz Márquez, Jesús Duarte, Romain Duda, Sandrine Gallois, Michael Riddell, Robert Nasi), PLOS ONE | DOI:10.1371/journal.pone.0161703 , p.1-20. 2016年09月02日

5「子どもの貧困問題の概要と課題 - 狩猟採集社会から「豊かな社会」を考える -」服部志帆、天理大学人権問題研究紀要19号, 17-32 2016年03月31日

6 "Distribution and Numbers of Pygmies

in Central African Forests" (Jesús Olivero, John E. Fa, Miguel A. Farfán, Jerome Lewis, Barry Hewlett, Thomas Breuer, Giuseppe M. Carpaneto, María Fernández, Francesco Germi, Shiho Hattori, Josephine Head, Mitsuo Ichikawa, Koichi Kitanaishi, Jessica Knights, Naoki Matsuura, Andrea Migliano, Barbara Nese, Andrew Noss, Dieudonné Ongbwa Ekoumou, Pascale Paulin, Raimundo Real, Mike Riddell, Edward G. J. Stevenson, Mikako Toda, J. Mario Vargas, Hirokazu Yasuoka, Robert Nasi), PLOS ONE | DOI:10.1371/journal.pone.0144499 ,Pp .1-16. 2016年01月06日

7 "Current Issues Facing the Forest People in Southeastern Cameroon: The Dynamics of Baka Life and Their Ethnic Relationship with Farmers" ,Shiho Hattori, African Study Monographs Supplementary Issue 47,pp.97-120. 2014年03月

〔学会発表〕(計 5件)

1 発表題目: "Use of Medicinal Plants and Transmission of the Knowledge by an Elderly Baka woman in Cameroon" Shiho Hattori, セッション: Women's Roles in Contemporary Hunting and Gathering Societies 学会: Eleventh Conference on Hunting and Gathering Societies 2015年09月10日

2 発表題目: Forest Reforms and Livelihood of Baka Hunter-gatherers in Southeastern Cameroon, Plenary II: Hunter-gatherers in a changing world 学会: Eleventh Conference on Hunting and Gathering Societies Author(s): ICHIKAWA, Mitsuo (CAAS, Kyoto University, Kyoto, Japan); HATTORI, Shiho (Tenri University, Japan); YASUOKA, Hirokazu (Hosei University, Japan) 2015年09月10日

3 発表題目: 「熱帯アフリカとアジアの比較民族植物学 - 狩猟採集民バカ・ピグミーとプナンの事例学会」: 第25回日本熱帯生態学会年次大会 共同発表: 服部志帆・小泉都 2015年06月21日

4 発表題目: 「薬用植物の知識と利用 - 狩猟採集民バカの高齢女性による医療実践 - 」服部志帆 学会: 日本アフリカ学会 第52回学術大会 2015年5月23日

5 発表題目 "Knowledge and use of medicinal plants: A case study of an elderly Baka hunter-gatherer woman in southeast Cameroon" Shiho Hattori, セッション: Women and Children of the Congo Basin 学会: 44th Conference of Society for Cross Cultural Research 2015年02月21日

〔その他〕  
ホームページ等  
天理大学国際学部教員・研究者情報  
<http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/q3tncs0000035sxr.html#basic>

6 . 研究組織  
(1) 研究代表者  
服部 志帆 (Shiho Hattori)  
天理大学国際学部 講師  
研究者番号: 50512232